

玉田先生の講演は、まず、女性ホルモンと月経随伴症候群や更年期症候群など女性特有症状との関係性の説明から始まり、女性の一生が、いかに女性ホルモンの影響を受けるかということや、女性特有症状が引き起こす労働損失の額など、社会に与える悪影響についてもお話された。

女性特有の症状の大きな原因のひとつは「冷え」であり、女性の多くは自覚症状のあるなしに関わらず冷えていることを強調。「まずは、服装や食生活など、普段の生活のなかで冷え対策を行うことが大事。それでも改善しない冷えや、不快な症状が改善しない場合には、漢方薬による治療も選択肢のひとつ。」と、漢方の診察方法や、症状に応じて使用する漢方薬についても説明された。

ご自身も女性特有の症状に悩まされ、キャリアを断念せざるを得なかった時期があったことや、漢方薬による治療で症状が緩和され、体調の管理がスムーズになった経験談も織り交ぜ、「すでに不快な症状があっても、改善する方法はあります。あきらめないでください。」と呼びかけられた。



麻布ミュージッククリニック
院長 玉田 真由美 先生



羽田 沙織 アナウンサー

セミナーでは、参加者からの事前質問を募集しており、「漢方薬を飲み続けることで体に悪影響が起こるか。効かなくなったりするか」、「漢方に詳しい病院や先生の見つけ方は」といった質問に対し、「体質が変われば処方も変わり、効かなくなったということは、処方を見直すタイミングです」「日本東洋医学会はじめ、漢方専門医を検索するサイトを活用しましょう。」と、検索方法を提示し、丁寧に回答された。羽田アナウンサーが女性目線のコメントや質問を投げかけると、玉田先生は具体例を挙げながら分かりやすい回答をされた。最後に「女性の皆さんの元気が社会を元気にします」と女性へのエールで結んだ。

会場の参加者が熱心にメモをとる光景が見られ、有意義なセミナーであった。

会場の外では、一般用漢方製剤委員会と生薬製剤委員会が、薬局等で市販されている漢方・生薬製剤の製品展示を行った。今年、桂枝茯苓丸の構成生薬の展示が加わり、多くの来場者が足を止め、展示に見入ったり、時には製品を手にとったり、熱心に質問をしている光景が見られた。

本セミナーを通して、生活者に漢方をより身近に感じていただけた。



桂枝茯苓丸の構成生薬



【展示の様子】多くの来場者が足を止め展示に興味を持っていただけた

